

5.15

アメリカのカンボジア侵略、ベトナム侵略戦争のインドシナ全域への拡大

市大抗議集会(12:30)

「糾弾」佐藤内閣の侵略加担、愛知の「アジア会議出席反対」

① アメリカのインドシナ全域への侵略拡大を糾弾する

4月30日、カンボジアへの侵略戦争、侵略を開始しアメリカは、今も大軍の米軍と南ベトナム軍に侵襲をカンボジア領内に侵入し、連日巨額の無差別爆撃など侵略を全インドシナに拡大している。

「ワシントン」は、この狂暴な侵略を進行するにあつて「ベトナム」に於けるアメリカ人の生命を奪ふ「米軍機銃計画」を引き続き実行させる「ヒムン」という言葉をもちふし合理化しようとしている。またこの理由で撤兵するといつて、愛憎する世界の世論を口づめようとしている。

しかし、我々は決して「まひ」しない。今日ベトナム人民の怒りと民族主権をふみにじつて大量の侵略軍を送り込んだのはアメリカ自身であつた。ベトナムに於けるこの侵略軍の「安全」を口実に、他の国カンボジアに侵略を拡大する——「ハート」も、まひにふさふさの帝国主義の侵略の論理、強盗の論理にばかりなつてゐる。

インドシナ三国人民は、4月24日の人民首脳会議の声明にも明らかにしたように、アメリカ帝国主義の侵略に対しては、固く団結した闘いをくりひろげている。

我々は、インドシナ人民を支援し、アメリカの侵略を断固として糾弾しなければならぬ。

② 侵略に加担する「アジア」の副官相佐藤糾弾

日米共同声明によつてアメリカに対し、その侵略とアジア支配の政策への全面的な支持を約束した佐藤内閣は、カンボジアのクーデターに際しては一早く「コンフル」派を承認し、べきぎの援助を与えてきたばかりではなく、このたびの米軍のカンボジアへの侵略に対し、「やむをえない」「自衛措置」であるとして、

全面的な支持を表明している。更にアメリカが「スポンサー」になり、インドシナを呼びかけにカンボジア介入のための反動諸国による「アジア会議」に愛知を出席させてやうとしている。

侵略条約の「自動延長」といつ名の侵略的攻撃への強化、何年何月何日という名の、沖縄を含む全土の侵略基地化、核基地化を約束した日米共同声明は、今や全国民の前にその危険な事実を明らかにした。

「アジア会議」は、日本がアメリカのアジア侵略の、拒否的役割を担ふとするものであり、「戦争を拡大」の美名の下で、今や内外に公然と「アジアの副官相」の姿をあらわそうとしているのである。

我々は、米軍のカンボジア侵略を糾弾するとともに、侵略加担の日米共同声明の道に戦争と侵略の道を進むことを断固として拒否し、反対しなければならない。

③ 自治会を再建し、安全保障をめぐり大斗争の展開を

我々と日本の運命をアメリカの侵略戦争と固く結びつけている愛知条約は、危険性が今我々の前に明らかになっている。

我々は6月22日の日米条約定期終止期以降、いつでも放棄できる歴史的な時代を目前にひかえ、今こそ市大4500名の団結を固め自治会再建をなわとり、安全保障の闘いをききかゝるべきではないか。全愛知自治会再建の大車輪を敷く、さあ大闘いを。

我々平和を愛する学生は、並みじくも、侵略戦争の道で決してなく、安全保障を放棄し、核も基地もない沖縄をとりもどし、中立平和の道である。

全学生が団結し、社、共、総評など大敵の全民主勢力の統一行動と統一戦線の形成を我々の手で切り開く、大闘いを担う全自治会を再建しようではないか。

全学連大共持大会議